

1 企画調整業務

令和3年度における要研究問題の把握、研究課題の設定調整など研究連携課に関する企画関連業務は次のとおりである。

企画調整業務の概要

(1) 令和4年度試験研究課題の調整

翌年度（令和4（2022）年度）の試験研究課題として農業技術センター経由で関係各機関から提案された要試験研究問題は、神奈川県山林種苗協同組合からの1件であった。この課題については、研究連携課で対応する方向で検討することとした。また、水源環境保全・再生施策大綱に係る各課題については、引き続き、実行5か年計画に基づき長期的・計画的に取り組んでいくこととした。

(2) 農林水産技術会議の開催

試験研究の研究方向に対する中間評価及び推進上必要な助言を得るため、学識経験者等による農林水産技術会議（研究成果評価部会）を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため書面開催にて実施した。

開催月日	開催場所	評価課題	委員
令和4年2月14日から3月10日	（書面開催）	ブナ林再生事業の推進に向けたブナハバチモニタリング（H29～R3）	山上 明 北島 博 逢沢 峰昭 西口 孝雄

(3) 研究推進支援研修の開催

プロジェクト研究等重点的な研究推進のため、外部有識者からの指導・助言を受けることにより研究員の研究能力向上を図る研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症に対する講師及び受講者の感染リスクを回避するため、今年度の研修の開催を中止した。

(4) 「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」行事への出展

いのち・未来戦略本部室主催の行事。新型コロナウイルス感染症に対する感染リスクを回避するため、今年度は開催されなかった。

(5) 「神奈川県農林水産系研究機関研究成果発表会」行事への出展

農林水産系の4県試合同の成果発表会。新型コロナウイルス感染症に対する感染リスクを回避するため、今年度の開催は見送られた。

2 研究業務

2-1 令和3年度試験研究体系

研究開発の長期目標

多様で豊かな自然環境の保全・再生と活用

1 森林生態系の保全・再生の支援

【奥山域】

○ブナ林再生事業の順応的推進手法の開発 重

- ・総合モニタリングによるブナ林再生事業の効果検証 [H29(2017)～] 事業連携※1
- ・ブナ林健全性評価と衰退リスクマップの更新 [H18(2006)～]
- ・ブナ林再生手法の改良 [H19(2007)～]

【山地域】

○水源林の公益的機能の評価・検証と管理技術の改良

- ・対照流域法調査による水源施策の2次的アウトカム（水源かん養機能の向上）の検証 [H19(2007)～]
- ・森林生態系効果把握調査による水源施策の2次的アウトカム（生態系の健全化）の検証 [H25(2013)～]
- ・スギ・ヒノキの人工林の管理技術の改良 [H19(2007)～]
- ・混交林の管理技術の改良 [H19(2007)～]
- ・ナラ枯れ対策の支援 [H30(2018)～]

【全森林域】

○ニホンジカの統合的管理手法の確立

- ・シカ密度低減下における生物多様性回復の評価手法の開発 [H29(2017)～] 技術支援※2
- ・シカ捕獲支援技術の開発 [H29(2017)～] 技術支援※2
- ・シカと森林の統合管理手法の確立 [H24(2012)～] 技術支援※2

2 関連事業

- ・林木育種事業 [S32(1957)～]
- ・優良種苗確保育成事業 [H21(2009)～]
- ・林業技術現地適応化事業 [H22(2010)～]
- ・試験林管理事業 [H7(1995)～]
- ・農林水産技術開発推進事業

【注】○：研究目標、・：課題、重：プロジェクト型の重点課題、新：新規研究課題

※1 重点対策地域（檜洞丸）の植生保護柵やシカ捕獲事業の順応的推進のための各課連携

※2 センサーカメラや植生等モニタリング成果を活用したシカ捕獲や水源林管理の技術支援

2-2 研究業務の概要

農林水産関係試験研究推進構想(森林等自然環境の部)に基づき、3つの研究テーマを柱として、主にプロジェクト研究形式により各個別研究を推進した。

● 3つの研究の柱と令和3年度の研究プロジェクトの概要

(1) ブナ林再生事業の順応的推進手法の開発(奥山域)

深刻な状況になりつつあることが明らかになった丹沢大山地域でのブナ林再生事業を科学的に推進するため、大気やブナハバチ、植生などのモニタリングを基本として、総合モニタリングによるブナ林再生事業の効果検証、ブナ林健全性評価と衰退リスクマップの更新、ブナ林再生手法の改良に取り組んだ。

(2) 水源林の公益的機能の評価・検証と管理技術の改良(山地域)

水源環境の保全・再生のための事業を順応的に進めるため、試験流域で実験的なモニタリング調査を行い、森林整備等の効果検証を行うとともに、水源林整備に関する技術開発に取り組んだ。さらに、水源林の整備が森林生態系全体に及ぼす効果について調査を行った。また、花粉症対策のための無花粉スギ・ヒノキや、水源林整備のための地域に適した種苗の品種開発・実用化に取り組んでいる。

(3) ニホンジカの統合的管理手法の確立(全森林域)

シカ採食圧の影響により、水源林整備の効果が低減し、また、ブナ林域でのシカの高密度化の解消が進まず森林生態系の劣化が懸念されている。そこで、シカなど大型ほ乳類の生息状況と森林生態系の状態を適切にモニタリングし、山岳地での効果的捕獲手法や水源林整備において森林管理とシカ管理を一体化して推進する手法を開発に取り組んでいる。